令和7年第2回(3月)筑紫野市議会定例会
第7回予算審査常任委員会

○日 時

令和7年3月24日(月)午前11時18分

○場 所

第1委員会室

○出席委員(22名)

委員長	上村和男	副委員長	城健二
委員	田中允	委員	横尾秋洋
委員	辻本美恵子	委員	赤司泰一
委員	高原良視	委員	西村和子
委員	原口政信	委員	白石卓也
委員	宮崎吉弘	委員	山本加奈子
委員	八尋一男	委員	古賀新悟
委員	坂口勝彦	委員	段下季一郎
委員	前田倫宏	委員	檜木孝一
委員	佐々木忠孝	委員	吉村陽一
委員	赤司祥一	委員	春口茜

○欠席委員(0名)

○傍聴議員(0名)

○一般傍聴者(0名)

○出席説明員(12名)

総務部長	嵯峨栄二	財政課長	高木伸泰
財政担当係長	尾形基貴	財政担当主任	藤森慎弥
こども部長	嘉村千穂	こども政策課長	岡嶋桐子
企画政策部長	宗貞繁昭	企画政策課長	中尾泰明
企画政策担当係長	齊田誠	教育部長	長澤龍彦
学校給食課長	八尋優一	共同調理場担当係長	田中宏一郎

○出席事務局職員(3名)

局長 荒金 達
主査 阿部 早苗

課長 高木 美智子

開会 午前11時18分

○委員長（上村和男君） お疲れでございます。皆さんおそろいですので、予定時間より少し一、二分早いようではありますが、予算審査常任委員会を始めたいと思います。

冒頭、先日、前田議員の一般質問にありました子ども館に関する執行部の答弁で、ニュアンスの違いが少しあって、受け止め方によっては誤解を生じるようなものでありましたので、執行部から改めて説明をしたいということで、こども部長以下おいでいただいておりますので、簡単に説明をしていただいて、審査に入っていきたいと思います。

部長。どうぞ。

○こども部長（嘉村千穂君） こども部長の嘉村でございます。ただいま上村委員長からおっしゃられたとおり、説明のために出席をさせていただいております。

昨日3月21日の一般質問において、前田議員の御質問に対して、再質問の答弁の中で、今から読み上げる部分はその一部でございますけれども、二日市コミュニティセンターにおける複合的な事業展開の一つとして、親子で集える子どもの遊び場の確保などを予定しているというふうに答弁をいたしました。

この中で、複合的な事業展開というところは、コミュニティセンター内に子どもの居場所として子どもが遊べる場を設けるとの意味でございました。補足して説明をさせていただきます。

よろしく願いいたします。

○委員長（上村和男君） 以上で説明を終わります。

お帰りください。

高原委員。

○委員（高原良視君） 今の部分で、ニュアンスが違いかいという問題じゃないと思います。ここで副市長がはっきり言われたそのことと、一般質問の答弁で答えられたこと、ニュアンスの違いとか言葉の違いとか、そういうことじゃないです。どういうふうな処理をされるんですか。ここで言うた分で、本会議場の問題をどう処理するのか。それはおかしいと思いますよ。そうせんと、ここで審議された、委員会で審議された分は、当然ながら議会報に載せますよね。それも載せる。そういう分の処理は、文言的にもどうどうというものをポンポンと口で言われても承服できません。文章的なものをピシャッと明示してください。

○委員長（上村和男君） 今そういう質疑がありましたけれども、処理については、議長をして、文言の修正が今説明がありましたので、そういうふうに処理をしていただくようお願いをしたいと思っておりますが、よろしいですか。

高原委員。

○委員（高原良視君） 議長による文言の修正といえばですね、そういう問題とこれは根本的な違いがあると思いますよ。それは議長によって職権でされる問題とされない問題があるんじゃないかと。だけど、どこが、ここで副市長が言われたことと、嘉村部長が一般質問で答弁されたこと、これはもう市長が答弁されたことやけんね、副市長が言われたって、あれは市長が一般質問で答弁をされたと同じですから、かぶせて全部それだけが生きているんですよ。それだけが。だから、前の分が消えて、一般質問の答弁は市長答弁と同じですから、それはそれだけが生きているんですよ。だから、ここの分の、予算委員会の分の採決のときの問題と、そういうものの整理も含めて、私はしないといけないというふうに思いますよ。そういうところは、事務局、その整理の仕方はおかしいんじゃないですか。

○委員長（上村和男君） 局長。

○議会事務局長（荒金 達君） 執行部の答弁の中に、複合的な事業展開という表現がございますが、副市長のほうは、予算審査委員会の中では、その部分を子どもの居場所というふうに表現をしていたと思います。副市長のほうは、それを昨年全協のときに、コミュニティセンターの件で出席をされたときも複合的な事業展開という表現をされていたので、上村委員長が言われるようなニュアンスの違いといいますか、子どもの居場所づくりというのを複合的な事業展開というふうに言い換えたというだけですので、今の嘉村部長の御説明で十分ではなかったかと、事務局としては思います。

○委員長（上村和男君） 高原委員。

○委員（高原良視君） 前、発言された。今度、発言された。ずっと更新されていくのよ。あなたが前のとき言うたとか。それは、この頃の副市長が来られて説明されたのは、学校の近くであって、学校、子どもたちやら来てから一緒になって遊んだりとか、そういうふうなものの言い方だったですね。私はそう理解した。ほかの人が違うように理解されとるなら別ですけど。私だけ、1人だけ、22人の中の1人だけが間違うとるなら私の文言は取り消していただいてもいいんですが、私はそのように捉えた。それが最終的に生きているんですよ。そして、それを打ち消したのが本会議場なんですよ。一般質問の本会議場。

だから、それをどうするのかですよ。ここの分との兼ね合いを。ニュアンスの違いとか、そういうことじゃないと思いますよ。文言ははっきり残っているんですから。そんな言うなら、文言をきちっと文章で起こしてよ。副市長の分を起こしているでしょう。

○委員長（上村和男君） しばらく休憩して、協議をしたいと思いますので、議運の委員長、副委員長、議長、副議長、どうするかを私も含めて行いたいと思いますので、しばらく休憩したいと思いますが、前田委員が発言を求めています。

前田委員。

○委員（前田倫宏君） 正直、私、この一般質問は事前に打合せをしまして、複合化も見据えたちゅう答弁だったから、正直期待を持って挑んだところではあります。先ほど言われた複合化事業っていったら、もう児童厚生施設等が併設して建てられるもんなんじゃないかなと思ってたんですけども、予算の審査の過程で、あくまでも二階建てで、単純にコミュニティの中に子どもの遊び場を少し設けるちゅう話だったから、正直、再質問したいところでもあったちゅうのが実情ですし、答弁、納得できないというのはそういった意味でも申し上げたんですけども。

さらに言うと、アップデートできてないんですよ、答弁が。1週間、2週間前の答弁が生きてて、さっき高原委員が言われたとおり、その後、状況が変わりました、一変しました。そこはやっぱり執行部がしっかり、答弁も状況が変わればアップデートしてもらわないと、言われたのに違うところがございますので。

今、話を戻しますと、一般質問の私の趣旨、皆さん御存じのとおり、子ども館ってもう言ってしまうですよ。その答弁が複合化ってなれば、皆さんイメージ的にはそう思われた方もいらっしゃるんじゃないかなと思います。でも実際は違うくて、すり替えじゃないかなと、改めて振り返るとですね。明確に子ども館に関して質問しているのに、子ども館に対しての、結局答弁ではなかったちゅうことなんですよ。それを踏まえて整理をしてもらえたらなと思います。

○委員長（上村和男君） よろしいですか、整理はしたいと思います。私がニュアンスの違いと申し上げたのは、受け取り方によってはいろいろ違ってくるので、どう整理するかということが今提起されておりますので、先ほど申し上げたように、議会運営委員会の委員長、副委員長、議長、副議長、それから予算委員会の委員長、副委員長で少し協議をさせていただいて結論を出しますので、どういう扱いにするかはそのとき申し上げたいと思いますので、よろしいですね。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上村和男君）　じゃあ、40分ぐらいまで休憩します。

休憩　午前11時25分

再開　午後0時00分

○委員長（上村和男君）　それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。

嘉村部長の説明について、何人かの委員から疑問が提出をされましたので、その取扱いについてどうするかを、先ほど申し上げた議運の委員長、副委員長、議長、副議長、予算委員会の委員長、副委員長で相談をいたしました。

皆さんに申し上げておきますが、せんだって、副市長が来ていただいてお話をさせていただきました。その中身は、二日市コミュニティセンターはコミュニティセンターとして、子ども館の建設については別途協議して考えていくというふうな形で整理をされています。

一般質問における答弁は、それを踏襲したつもりであったんですが、そういうふうを受け取れないような理解といたしますか、そういうこともあったかと思しますので、先ほどのこども部長の説明にあるように、副市長が言った二日市コミュニティセンターはコミュニティセンターで、コミュニティセンターの中に子どもが集うようなスペースをつくるというようなことは了解していただければいいのかなというふうに思っていますので、副市長が答弁、お話をさせていただいたことが、執行部のこの時点での最後の意見だというふうに皆さん御理解をいただければいいのかなと。当委員会としても、そういうものとして進めていきたいというふうに思います。

ただ、いろいろとニュアンスの違いというには、施政方針、代表質問、ここでの予算審査の過程、そして一般質問という中で、いろいろと進めていく中で、どれが本当かというふうになってきていますので、最終的には副市長に来ていただいて話をさせていただいた。二日市コミュニティセンターは二日市コミュニティセンターです。その中に子どもの居場所のようなことは当然にも考えてまいります。子ども館については別途考えてまいりたいというお話があったということで、それを一般質問でも答弁したつもりですと、読みようによってはそうなっています。

ただ、読みようによっては、ん……、というのもありますので、今日は嘉村部長に来て

説明を願ったというふうに御理解をいただければと思いますので、どうぞ皆さんの御理解を得た上で、それでこの問題は処理をしまいたいと思いますので、よろしいですね。

高原委員が手挙げていますので、どうぞ。

○委員（高原良視君） これは、委員長に聞く話じゃないんですが、一般質問の答弁の取扱いについてはどうされるんですか。本会議場の答弁については、ニュアンスの違いとかじゃなくて言葉の違いがはっきり出てきましたので、言葉の違いの答弁のやり直しとか修正というものはどのような形で取扱いをされるのでしょうか。これは委員長に聞く話じゃありませんので、これはもう議長か議運の委員長のほうが協議していただければと思っておりますが、市長がここのところが間違っておりましたというような形で言うのか、そこは分かりませんが、どのような取扱いをしようとしているのか。

○委員長（上村和男君） 議長。

○委員（赤司泰一君） よかったら、どこを修正するかというのを教えてもらっていいですか。

○委員（高原良視君） あなたが今協議してたことは、一般質問の答弁の内容が、ニュアンスじゃなくて根本的に違いの部分が出とったでしょ、文言的にも。その違いの分はどう……、議長で字句の修正をするというものだけじゃ収まらんのではないかというふうに私は思うんですよ。だから、一般質問の答弁ですから、本会議場でどのような形で、ここは間違っておりましたとか、そういうふうなことを執行部のほうから出されるのか、そここのところの取扱いをどのように考えておられるのか、そこまで協議はされなかったんですか。

○委員長（上村和男君） 副議長。

○委員（辻本美恵子君） 協議のときに私が言ったのは、前田議員が質問された内容に答える内容、部長の答弁は、全然間違いじゃないです。副市長が言われたことそのままだと思うんですね。「多機能型児童館の整備等につきましては」と前田議員が聞いてて、「多機能型児童館の整備等につきましては」と1回切って、「新たに整備する二日市コミセンにおける複合的な事業展開の一つとして、親子で集える子どもの遊び場の確保などを予定しておりますが」で一旦切っているんです。ここで一旦、段落切れて、その後ろからが本当の前田議員の質問に対する答えて、「多機能化に伴うソフト面及びハード面の整備につきましては、子どもの居場所づくりを横断的に検討するために、新たな市内連携の場において総合的な視点で検討してまいります」、この部分、この2行半が前田議員の質問に対

する答えだと思うんです。前田議員が聞いた子ども館の整備等についてはというのに対する答えはこの後ろの2行で、前は二日市コミセンはこんなふうな事業展開をしますという説明だけだったと思うので、私は、前田議員の質問に対する部長の答弁も全く、何というか、違いはないというふうに思っている。だから、一般質問の訂正をしないとイケないというふうには思えないです。

○委員（高原良視君） それなら、間違っておりましたって言いに来ることも要らんめえもん、わざわざ。ニュアンスの違いでから、そういうことの違いかっていう言葉は。間違ったらんけん、キレイで同じということなら、何もニュアンスの違いということも何もなかろうもん。

○委員（辻本美恵子君） でいいんじゃないですか。この文章を私たちが受け止められないから前田議員が問題提起されたんだけど、私の解釈としては、この答弁に全く、何というか、齟齬がないというか、質問に対する答弁としてはこれでいいんじゃないかなと思っているので、新たに部長が謝ったからということを持ち出されなくてもいいような気がしますけど。

○委員長（上村和男君） 部長は私たちの中に理解がちょっと違ったかもしれないので説明に来ているだけで、間違えましたっちゅって言ってきているんじゃないですよ。

いいですか。いろいろ御意見もあるところでありますが、これからいろんなことを審査していく、議会と執行部の在り方で意思の疎通を図りながら、ニュアンスの違いなんていうのはどう感じるかの違いだけですから、それはお互いに説明を尽くす、あるいは質疑を尽くす、そういう中で出てきた答えが最終的にはこうであったというようなことが3月議会での審査の結果なんですね。副市長が来てしゃべったことが実は執行部の最後の意見だというふうに理解して、すなわち二日市コミュニティセンターはコミュニティセンターで造って、子ども館のようなものは別途考えてまいりましょうと、そういうふうにこれも答えてはいるんですよ。取りようによってはというところがあったので、来て説明をしてもらいまして、協議もしました。追加の質疑もありましたので。ぜひそういう意のあるところを酌み取ってお帰りください。私のほうから言うと、よく説明を尽くすように、あるいは、説明をよくした上で議論をしましょうねというふうに申し上げておきますので、予算委員会の委員長報告の最後には、このことにきっと触れられる。あなたの答弁について触れるというわけではないです。議会と執行部の間の風通しをもう少しよくしたらどうでしょうかというふうに市長に申し上げて終わりというふうにしたいと思っていますので、

そのところ、意のあるところを酌み取っていただければと思いますので。

じゃあ、ちょっと時間は過ぎていますが、継続して補正予算の審査に入ります。

お疲れでしたらしばらく休憩します。2分ぐらいで始めます。

休憩 午後0時10分

再開 午後0時11分

○委員長（上村和男君） それでは、議題1、議案第38号、令和6年度筑紫野市一般会計補正予算（第11号）についての件を議題といたします。

初めに、議案審査の流れを申し上げます。まず、本補正予算の概要及び基金積立事業について財政課から説明があります。次に、事業内容説明を所管課が行います。質疑についてはその都度行います。最後に討論・採決を行います。

それでは、嵯峨部長が見えていますので、御挨拶をいただき、併せて出席職員の紹介をお願いいたします。

嵯峨部長。

○総務部長（嵯峨栄二君） こんにちは。総務部、嵯峨と申します。

本日は、追加で御提案をさせていただきました令和6年度一般会計補正予算（第11号）及び令和7年度一般会計補正予算（第2号）の御審査、よろしくお願ひしたいと思ひます。改めて審査いただくこと、御礼を申し上げます。

まずは、令和6年度一般会計補正予算（第11号）について、財政課のほうより概要説明等々を含めて御説明を申し上げます。

出席している職員を御紹介いたします。

財政課長の高木でございます。

○財政課長（高木伸泰君） 高木でございます。よろしくお願ひします。

○総務部長（嵯峨栄二君） 財政担当係長の尾形でございます。

○財政担当係長（尾形基貴君） 尾形です。よろしくお願ひします。

○総務部長（嵯峨栄二君） 財政担当主任、藤森でございます。

○財政担当主任（藤森慎弥君） 藤森と申します。よろしくお願ひします。

○総務部長（嵯峨栄二君） どうぞよろしくお願ひいたします。

○委員長（上村和男君） 高木課長から説明願ひします。

高木課長。

○財政課長（高木伸泰君） それでは、議案第38号、令和6年度筑紫野市一般会計補正予算（第11号）について御説明をさせていただきます。

タブレットでは、本会議のフォルダ内13番、議案書、令和7年3月21日提案と書いたファイルをお開きください。こちらの6ページとなります。

令和6年度筑紫野市一般会計補正予算（第11号）でございます。

第1条の歳入歳出予算の補正としまして、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ1億1,600万円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ428億9,924万4,000円とすることとしております。

補正予算の内容につきましては、提案内容補足説明書を用いて御説明させていただきます。

タブレットでは14番、補足説明書、令和7年3月21日提案、こちらのファイルをお開きください。5ページとなります。

中ほどに、歳出予算補正の内容ということで記載をしておりますが、この2事業に関しましては、後ほど財政課も含め所管課が説明をいたします。

次に、下段の歳入予算補正の内容について説明をさせていただきます。

歳入は1点、ふるさと応援寄附金でございます。見込額の増に伴うもので、1億1,600万円を増額するものでございます。

概要についての説明については以上でございますが、引き続き、中段の歳出予算補正の内容に戻りまして、基金積立事業について御説明をいたします。

内容としましては、ふるさと応援寄附金を積み立てるものでございます。

補正額に関しましては、歳入の寄附金額と歳出の納付促進事業費との差額7,740万円を増額するものでございます。

財政課からの説明は以上でございます。

○委員長（上村和男君） それでは、質疑に入ります。

質疑はありませんね。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上村和男君） 質疑を打ち切ります。

課の入替えのため、しばらく休憩します。2分間だけ休憩します。

休憩 午後0時15分

再開 午後0時16分

○委員長（上村和男君） それでは、休憩前に引き続き会議を再開いたします。

次に、企画政策部の所管課からの説明となりますが、宗貞部長がお見えですので、一言御挨拶していただいて、出席職員の紹介をお願いいたします。

宗貞部長。

○企画政策部長（宗貞繁昭君） お疲れさまです。企画政策部の宗貞でございます。

企画政策部企画政策課から、ふるさと納税の、1月に増額いただきましたけど、さらに寄附の増加が見込まれるということで、追加の提案をさせていただいております。どうぞ御審議、よろしくをお願いいたします。

出席職員の紹介をさせていただきます。

企画政策課、企画政策課長の中尾でございます。

○企画政策課長（中尾泰明君） 中尾でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○企画政策部長（宗貞繁昭君） 企画政策課、企画政策担当係長の齊田でございます。

○企画政策担当係長（齊田 誠君） 齊田です。よろしくお願いいたします。

○企画政策部長（宗貞繁昭君） よろしくお願ひします。

○委員長（上村和男君） 中尾課長。

○企画政策課長（中尾泰明君） それでは、ふるさと応援寄附金納付促進事業について御説明を申し上げます。

ふるさと応援寄附金につきましては、歳入歳出ともに重要な事業であるというふうに考えておりますので、先ほどの財政課の説明と若干重複するかもしれませんが、予算書を用いて説明をさせていただきたいと考えております。

まず、予算書の14ページをお開きいただけますでしょうか。14ページ、歳入でございます。

19款寄附金、1項寄附金、2目のふるさと応援寄附金でございます。

補正前の額が8億6,662万6,000円となっております。こちらでございますが、先ほど部長からも御説明を申し上げましたが、令和6年度当初の時点では歳入予算として6億9,262万6,000円を計上しておりましたが、年末にかけ多くの皆様に多額の寄附をいただいたことから、1月の臨時会で補正予算を御可決賜り、歳入の額を増額させてい

ただいたというものでございます。

しかしながら、臨時会後の2月、そして3月上旬につきましても、大変ありがたいことに、1月時点の見込みを大幅に上回る寄附をいただいております。令和6年度の最終的な寄附金額につきましては、9億5,000万から9億8,000万の間程度の額に至るものというふうに見込んでいるところでございます。

そのため、補正額の欄でございますけれども、歳入予算を1億1,600万増額いたしまして、補正後の歳入予算額を9億8,262万6,000円とするものでございます。

続きまして、次の16ページを御覧いただけますでしょうか。16ページ、歳出でございます。上から2段目がふるさと応援寄附金に係るものでございます。

2款総務費、2項企画費、1目企画調整費でございます。

先ほど歳入予算について御説明を申し上げましたが、寄附金の増加に伴い、寄附を募集するポータルサイトの運営経費、寄附者への謝礼品の調達、配送に係る経費等々が必要となっておりまして、17ページに記載をしておりますとおり、委託料を3,860万円増額させていただきたいというものでございます。

説明は以上でございます。

○委員長（上村和男君） それでは、説明が終わりましたので、質疑に入ります。

質疑のある方はありませんね。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上村和男君） それでは質疑を打ち切ります。

企画政策部の皆さんにはお疲れさまでございました。

しばらく休憩します。

—————・—————・—————
休憩 午後0時19分

再開 午後0時20分
—————・—————・—————

○委員長（上村和男君） 休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

ただいまから討論を行います。

議案第38号について討論される方はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上村和男君） 討論を打ち切ります。

これより採決を行います。

議案第38号、令和6年度筑紫野市一般会計補正予算（第11号）の件を原案のとおり可決することに御異議ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上村和男君） 御異議なしと認めます。よって、本件は全員一致で可決すべきものと決しました。

続きまして、議案第39号、令和7年度筑紫野市一般会計補正予算（第2号）の件を議題といたします。

初めに、議案審査の流れを申し上げます。本補正予算の概要について財政課から説明があります。次に、事業内容説明を所管課が行います。質疑についてはその都度行います。最後に討論・採決を行います。

それでは、概要説明です。

財政課から説明願います。

高木課長。

○財政課長（高木伸泰君） 続いて、議案第39号、令和7年度筑紫野市一般会計補正予算（第2号）について御説明をさせていただきます。

タブレットでは13番、議案書の令和7年3月21日提案分でございます。こちらの20ページをお開きください。

令和7年度筑紫野市一般会計補正予算（第2号）でございます。

第1条の歳入歳出予算の補正としまして、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ5,599万円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ429億196万3,000円とすることとしております。

補正予算の内容につきましては、提案内容補足説明書を用いて御説明をいたします。タブレットでは14番、補足説明書令和7年3月21日提案、再度こちらのファイルの7ページをお開きください。

中ほどの歳出予算補正の内容の部分については、後ほど所管課が説明をいたします。

下段の歳入予算補正の内容について説明をさせていただきます。

基金繰入金でございます。学校給食物価高騰対策事業へ充当するため、見合いの金額5,599万円を創生振興基金から繰り入れるものでございます。

財政課からの説明は以上でございます。

○委員長（上村和男君） それでは、質疑に入ります。

質疑のある方は、挙手の上、委員長の指名を受けてから発言されるようお願いいたします。質疑ありませんね。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上村和男君） 質疑を打ち切ります。

課の入替えのため、しばらく休憩します。

教育部が入ってきます。

休憩 午後0時23分

再開 午後0時24分

○委員長（上村和男君） 休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

次に、教育部の所管課からの説明となりますが、長澤部長がお見えになっておりますので、御挨拶をいただき、併せて出席職員の紹介をお願いいたします。

長澤部長。

○教育部長（長澤龍彦君） 皆様、こんにちは。教育部長の長澤でございます。本日は、議案第39号、令和7年度筑紫野市一般会計補正予算の学校給食物価高騰対策事業について補正予算の審査をお願いするものでございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

出席をしております学校給食課職員が自己紹介いたします。よろしくお願い申し上げます。

○学校給食課長（八尋優一君） 学校給食課、課長をしております八尋です。よろしくお願い申し上げます。

○共同調理場担当係長（田中宏一郎君） 学校給食課共同調理場担当係長の田中です。よろしくお願い申し上げます。

○委員長（上村和男君） それでは、学校給食物価高騰対策事業について説明をお願いします。

八尋課長。

○学校給食課長（八尋優一君） それでは、御説明申し上げます。

学校給食物価高騰対策事業につきまして、内容について御説明申し上げます。

まず、主な事業の内容でございますけれども、こちらは、学校給食物価高騰対策事業費、給食物資、特にお米の価格が高騰する中、給食の質を維持し、保護者の負担軽減を図

るため、学校給食費の助成を行うものということでさせていただいております。

当初の予算の見込みのところでは給食費の値上げを考えておったんですけれども、2月初旬に、お米の高騰がまだ続くということが判明いたしましたものですから……、すみません、こちら学校給食物価高騰対策事業助成金というところで資料を作らせていただいておりますので、それを用いまして御説明申し上げます。

まず、今現在、小学校が4,600円、月額でございます。中学校が5,500円ということで、保護者負担となっているところでございますが、中段、児童生徒1人当たりの月額というところの部分が、7年度は、小学校が6,060円、中学校が7,040円と決定になりましたものですから、当初、小学校は1人当たり900円、中学校が1,000円と見込んでおりました。しかしながら、物価高騰というところで、黄色い部分ですね、補助額というところ、補正と書いておりますが、小学校が560円の補正増、中学校が540円の補正増というところで、小学校が合わせましたら1,460円、中学校が1,540円、これを補助することで今現在、保護者の負担額4,600円、中学校が5,500円で維持できるということになっております。

下段でございます。必要予算額でございます。当初予算では9,449万円を見込んでおりましたけれども、その物価高騰対応をするため、補正額、小学校が3,757万6,000円、中学校が1,841万4,000円の、合計5,599万円をお願いするところでございます。補正後に関しましては、合計が1億5,048万円となる見込みでございます。

どうぞよろしくお願いたします。

簡単でございますが、以上で説明を終わらせていただきます。

○委員長（上村和男君） 説明が終わりました。

質疑のある方、挙手を願います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上村和男君） ないですね。これにて質疑を打ち切ります。

教育部の皆さんはお疲れでございました。

—————・—————・—————
休憩 午後0時28分

再開 午後0時29分
—————・—————・—————

○委員長（上村和男君） 休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

ただいまから討論を行います。

議案第39号について討論される方はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上村和男君） 討論を打ち切ります。

これより採決を行います。

議案第39号、令和7年度筑紫野市一般会計補正予算（第2号）の件を原案のとおり可決することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上村和男君） 御異議なしと認めます。よって、本件は全員一致で可決すべきものと決しました。

これにて本日の議事は終了いたしました。

これをもちまして、予算審査常任委員会を閉会いたします。お疲れでございました。

閉会 午後0時30分